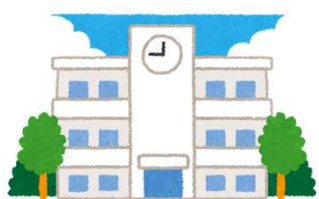


スクールソーシャルワーカー (SSW) が果たす学校支援とは



令和5年10月30日
板橋区教育支援センター

1

■ スクールソーシャルワーカー支援

1 導 入

平成27年度より事業開始

2 職務内容

- ① いじめ、暴力行為、不登校など、児童生徒の問題行動や
家族、友人関係、学校、関係機関、地域等への働きかけ
- ② 児童生徒との面接や家庭訪問等の相談活動
- ③ 保護者と教職員間の調整、橋渡し
- ④ 保護者と教職員等への関係機関や社会資源に関する情報提供や紹介
学校内におけるチーム支援体制の構築と支援

2

■ 令和5年度当初予算案プレス発表

「いたばし No.1 実現プラン 2025」重点戦略Ⅰ SDGs 戦略

安心できる居場所をめざして！学校における支援体制強化

◎学校における居場所推進事業の拡充

◎スクールカウンセラー(SC)の増員

◎スクールソーシャルワーカー(SSW)の増員及び学校配置

◎学校の支援体制の強化

区立中学校データ
(令和4年5月1日時点)
学校数：22校
学級数：290学級
生徒数：9,349名

課題解決機能を強化していきます。
これにより、子どもたちにとって一番身近な学校において、子どもたちの課題にいち早く気づき、対応する体制を構築し、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりをめざします。

3

■ スクールソーシャルワーカー 支援方法の課題

派遣型(昨年度までの形態)

→教育支援センターに配置し、学校からの要請に応じて派遣

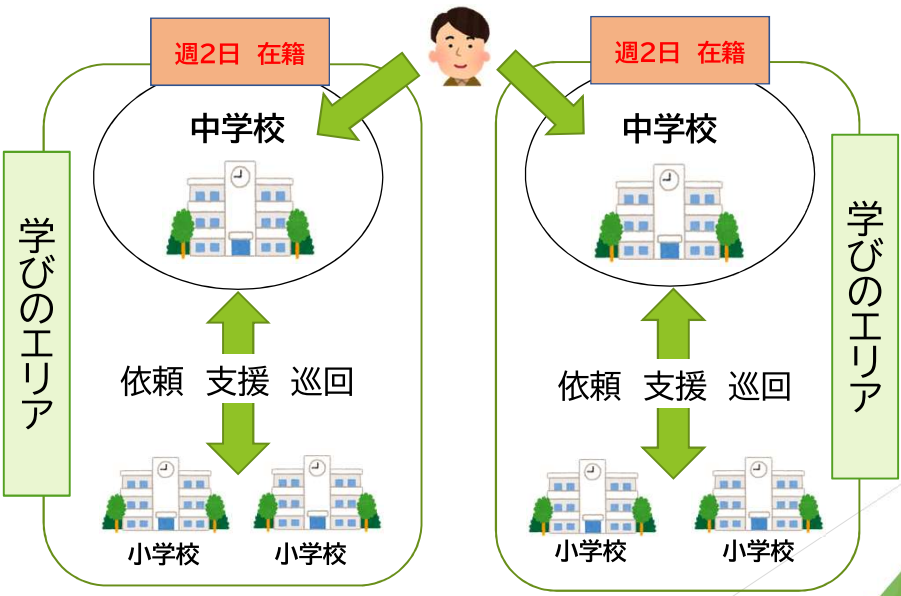
- 学校が抱える課題、支援ニーズへの把握が十分でないままの対応。
- ケースへの関与が限定的。
- 緊急支援に迅速に対応できない。

拠点型(令和5年度から)

6名から11名に増員し、学校配置とした

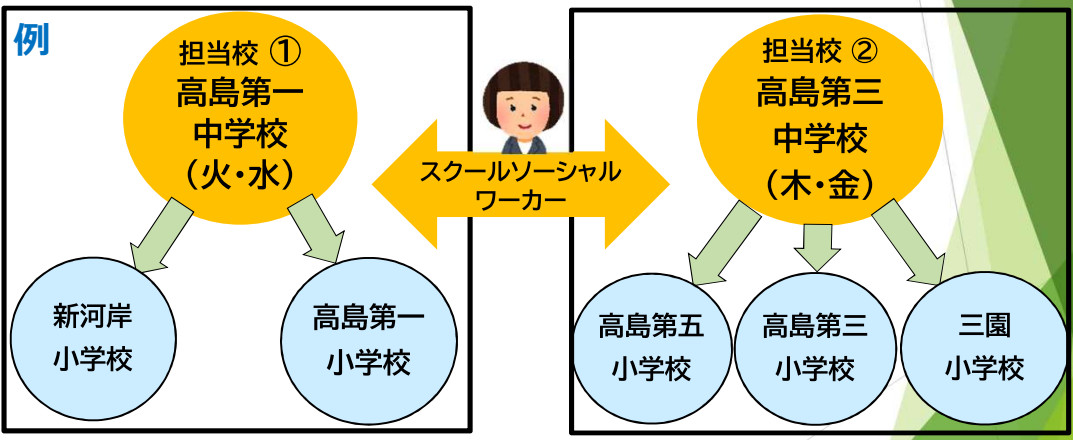
4

■ 学校配置状況



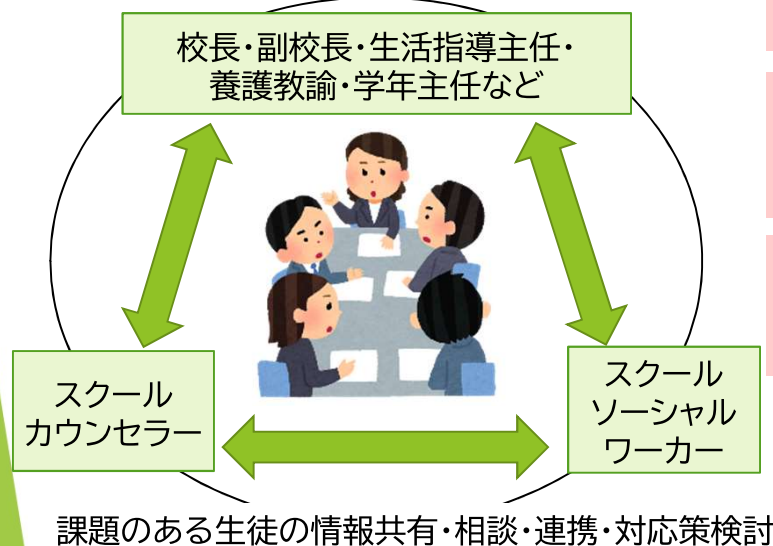
■ 拠点型配置のイメージ

中学校2校を拠点とし週に2日ずつ勤務
小学校へは定期的に巡回し、依頼があれば支援に伺う



■ 支援の流れ

校内委員会(学校ごとに開催)



◎学校長の指示のもと
支援が開始される

◎校内委員会や保護者面談
などでは、スクールカウ
ンセラーと連携が密にとれる

◎校内委員会に出席するこ
とで一緒に検討することが
でき支援が迅速に行える

7

■ 拠点型への移行による課題の改善

- ◎教員や保護者との信頼関係を構築しやすい
- ◎学校内のチーム支援体制が組みやすい
- ◎学校現場の多様な情報が得やすい
- ◎学校の抱える課題、支援ニーズを適切に把握できる
- ◎個別ケースの対応を継続的に行うことができる
- ◎タイムリーな支援が行いやすい
- ◎早期発見に直接関わることができる
- ◎学校→教育委員会 派遣申請書が不要となる

8

■ 派遣型と拠点型との比較

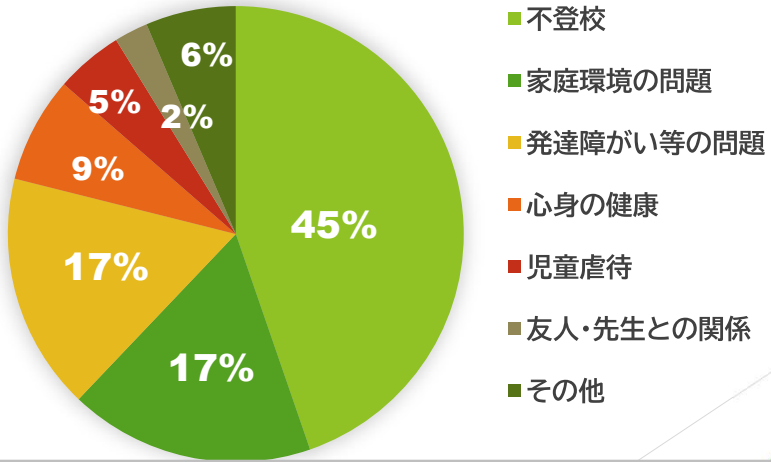
支援対象数の変化(前年度同月比較)4月～8月



9

■ 対応内訳(主訴別)

令和5年度における主訴別対応割合
(4月～8月)



10

■ 【検証】1学期を終えて

- ▶【8月】全中学校へ訪問→学校長にヒアリング
◎即対応、即相談、派遣申請不要
- ▶【8月】学校現場での活動→SSWにヒアリング
▼SSW間の情報共有の場や新規SSWの育成
▼困難事例のサポート

●支援体制の強化●
SVの設置、複数での支援体制、事例検討会など

11

■ 活動状況(事例)

活動事例1(小学校)

【事案】

■本人が養護教諭に家庭状況を相談し、妹の世話(幼児)をしていることがわかる。学校が母と面談し家庭状況を確認した。



【SSW介入】

■母との面談の結果、学校長から依頼あり。
SSWも母と面談を行い、子ども家庭総合支援センターに家庭状況を相談。
民生・児童委員と連携する。

【対応結果】

■民生・児童委員が家庭を訪問し、家庭への支援を検討している。

【結果】

学校配置となり、顔が見える関係を築くことにより、
地域の方々とSSWが連携し、必要な支援を行っている。

12

■ 活動状況(事例)

活動事例2(小学校)

【事案】

■家庭が複雑な状況。祖父母宅に預けられ次第に登校を渋るようになる。母が毎朝学校に連れてくるが、泣き叫ぶなど母も負担感から体調に影響が出始めていた。登校しても教室には入れずその原因もわからないままであった。



【SSW介入】

■校内委員会で情報共有があり。母親と継続した面談を行う。医療的な関与が必要と思われたため、病院へ受診同行。医師から今後の対応についてアドバイスをもらう。

【対応結果】

■医学的な所見に基づき、本人への対応方法について、学校と家庭で共有し、状況改善が図られた。定期的な受診、今後療育に通う予定にもなっている。

【結果】

学校配置により、家庭への面談を頻繁に実施し、状況を把握した結果、必要な支援へとつなぐことができた。

13

■ 活動状況(事例)

活動事例3(中学校)

【事案】

■両親、姉、兄(高校生)、本人、弟(小学生)の6人世帯。
家庭の悩みを祖母にしたが取り合ってもらえず、担任に相談。



【SSW介入】

■校内委員会で情報共有あり。本人からの聞き取りにより、母からの暴言等による心理的虐待が疑われた。
子ども家庭総合支援センターへ連絡。
弟のサポートについて小学校と連携。

【対応結果】

■現在、子ども家庭総合支援センターでは児童福祉司が本人の対応を行っている。
弟のサポートは小学校SCが対応し、本人の学校でのサポートは担任とSSWで行っている。

【結果】

学校配置により、SCとも課題共有することが可能となり、また、さまざまな関係機関からの支援が行えるようになった。

14

高校個別相談会のお知らせ

不登校傾向や不登校の生徒と保護者を対象に、高校個別相談会を行います。
不安を少しでも解消し、進路選択に役立てていただけたらと思います。

日時 令和5年8月5日(土) 11:00～16:00 (最終入場15:00)

場所 板橋区役所南館6階 教育支援センター研修室
東京都板橋区二丁目66番1号

内容
○教職員などによる進学相談
○高校ごとの個別相談



お気軽にご参加ください。
申込不要 参加費無料

※個別にお伺いしながらご案内いたします。

お問い合わせ 板橋区教育支援センター教育相談係
TEL: 03-3579-2195

参加予定校

【都立高校】
桐ヶ丘高等学校、桜ヶ丘高等学校、新宿山吹高等学校、
六本木高等学校、北豊島工科高等学校、練馬工科高等学校

【私立高校等】
大原学園高等学校、東海大学付属望星高等学校、
八洲学園高等学校、立志舎高等学校、
CLARK NEXT Tokyo 東京共育学園高等部、
さくら国際高等学校 ときわ台学習センター フリースクール寺子屋学園



不登校支援

参加者倍増 120名(昨年度60名)

15